

創立者出身地福井県鯖江市 ふるさと活動隊プログラム

テーマ 2017



鯖江とともに、自ら考えて動く。「伝統を身近に。鯖江の魅力を伝え隊」
鯖江市での現地調査（9月15日～18日）

プログラム1日目（市長面談，現地調査：各地ヒアリング）（9月15日）



鯖江市では、本年も当学生が本学創立者のひとり矢代操先生の出身地鯖江市でのふるさと活動隊派遣プログラムを「2017 鯖江ブランド創造プロジェクト」と位置付け、「伝統を身近に。鯖江の魅力を伝え隊」を共通テーマに、3泊4日の現地調査を行うこととし、これまで事前学習等で学んできた内容をもとに、実際に現地を訪れての体験、様々な方へのインタビュー等を通じて鯖江の魅力に触れ、ふるさと活動隊ならではの魅力発信の提案をいたしました。

現地調査初日、牧野百男鯖江市長への表敬訪問（大学挨拶：岩崎宏政 社会連携事務長）を行いました。牧野市長は、「鯖江市は全国に誇る先進事例が多く、市民が自分事として地域の活動に参加及び提言できる仕組みと風土が整っている。オープンデータソースの活用も積極的に推進しており、代表的な眼鏡産業、漆産業をはじめスマートグラスやメディカルウェアラブル製品に至るまで、注目度の高い市となっている。大学がない鯖江市であるが、多くの学生が「鯖江市地域活性化プランコンテスト」など様々な取組で集っており、学生の皆さんの提案をなるべく受入れ、具現化するよ



うにしている。有効求人倍率も全国で抜群に高いが、課題もまだまだある。今回は初めての留学生の参加ということで、鯖江の魅力を世界に発信していくにはどうしたらよいか。新たな発想で、自由なアイデアを出していただきたい。現地の人々に直に触れ合っていて感じていただきたい。最終日の成果報告、提言を楽しみにしている。」と歓迎の挨拶がありました。

ふるさと活動隊の学生は、鯖江市役所商工政策課・財務政策課・市民まちづくり課の方々に挨拶をし、ふるさと納税及びJK課等の政策についてヒアリングを行いました。





続いて矢代操先生胸像及び矢代家跡地を訪れ矢代先生の偉業を振り返りつつ、竹内光学工業様のご協力の下、めがね工場見学を実施し、全国でも著名な久保田酒店をはじめとして、商店街を散策し、ヒアリングを行いました。途中、鯖江名物「さばえドッグ」を食し、ヒットまでの経緯を学ぶとともに、商工会議所の協力により鯖江市におけるビジネスの現状を学びました。

今回のふるさと活動隊の滞在先は「神明苑」で、各グループとも夕食の後は夜遅くまで、最終日の政策提言に向けたプレゼンテーションの精度を高めるためグループワークに余念がありませんでした。

プログラム 2 日目～3 日目（現地調査：各地ヒアリング）・前日リハーサル（9 月 16 日～17 日）



2 日目・3 日目は各チーム（チームMD 課：高橋佑太・白井万貴弥・菊地薫子・李 曼二・沙野・劉 暁トン、チーム酒蔵倶楽部：横井綾夏・澤田夏帆・塩川大貴・北川 賢・高岡茉有）で現地体験・ヒアリングを精力的に行いました。

●ヒアリング箇所事例（2 日目）：漆遊館にて蒔絵体験・越前和紙の里にて紙漉き体験・うるしの里会館・河和田くらしの祭典にて工房巡り・ラポーゼかわだ・鯖江における起業家へインタビュー他。

●ヒアリング箇所事例（3 日目）：農業体験（芋掘り：例年漆体験でご尽力いただいている駒本先生にご指導いただきました）・まなべ館見学・めがねミュージアム他



【前日リハーサル】

いよいよ翌日に迫った「鯖江の魅力発信の政策提言」の最終プレゼンテーションに向け、鯖江市役所の皆様のご協力の下、前日リハーサルを行い、市役所の皆様から率直なご意見を頂戴すると同時に、マーケティングが専門の商学部大友純教授が講評をし、最終提言に向けて再修正作業に各グループとも集中をしていました。



その日のグループワークは各グループとも深夜まで及び、提言内容の最終ブラッシュアップのため、鯖江市役所の澤村様も駆けつけてくださり、何とか完成に至りました。

プログラム4日目（政策提言）（9月18日）

鯖江とともに、自ら考えて動く。「伝統を身近に。鯖江の魅力を伝え隊」と題し、3泊4日という短い期間で現地ヒアリング及び様々な体験をし、鯖江市の人々と触れ合う中で学びを重ねた集大成である、「政策提言」の日を迎えました。

この日は祝日でありながら、牧野市長及び中村副市長をはじめとして、鯖江市議会議長及び副議長並びに商工関係の皆様、市役所の皆様が多数集まってくださいました。

ふるさと活動隊の学生たちは緊張の面持ちながら、直前リハーサルを行い、最終の微修正をし、プレゼンテーションに臨みました。

【最終成果報告会】



成果報告会の冒頭、大学を代表し、明治大学の生涯教育事業の拠点「リバティアカデミー」のアカデミー長である大友 純商学部教授から、ふるさと活動隊の活動に対する鯖江市関係各位の多大なご支援とご尽力に対し御礼の挨拶が述べられ、各グループの発表が開始されました。

グループ名「MD課」は、「**メガネ×IT**」をテーマに“メガフィー”という自撮りをすると最適なメガネが3Dで提示され、利用者と現地の販売店

舗が繋がるというもので、現地企業は利用者の傾向及びPRとして活用できるアプリケーションの導入を提案しました。

一方、**グループ名「酒蔵倶楽部」**は、「**鯖江を世界へ！！**」テーマに、中国における近視率及び市場分析を進め、鯖江のメガネの持つ品質とブランド力のポテンシャルを考慮した上で、中国市場において勝算があり、その展開方法をクールジャパン機構及びトビタテ留学JAPANプロジェクトとの連携及び、日経新聞でも報じられた国内メガバンク及び地銀連合が注力する仮想通貨の可能性に着目した上で、中国主要企業が注力している仮想通貨のプラ





ットフォームを活用することで中国市場に入っていけると仮説を立て、5億人のユーザーがいる中国版ツイッターであるWeiboの活用事例を交えて提案をしました。

提案後の講評及び質疑応答では、牧野市長から「今回はじめてふるさと活動隊として中国からの留学生3名が参加され、その方々から中国市場の分析や眼鏡についての中国人としての視点を直接伺うことができたことは、今後の海外展開に非常に参考になりあり

がたい。両グループとも、まだ細部について具体的な提案が欲しい箇所があるので、10月末の最終報告書までにブラッシュアップをしていただくことを楽しみにしている」という講評がなされ、商工会代表の方からも両グループの提案の率直な課題について指摘がなされる等、貴重なご意見をいただきました。

各グループでは、成果報告会での講評及び質疑応答内容について、10月22日のホームカミングデーまでに再調査及び追加修正をし、最終報告書を作成することとし、活動の幕を閉じました。



活動を終えてふるさと活動隊各メンバーは、「やっぱり現地に来たら全然違った。もっともって鯖江が好きになった。感謝の気持ちでいっぱいです!」「留学生として貴重な経験が出来ました。帰国をやめて参加して本当に良かったです!」と鯖江に深い愛着を覚えていました。今後も文字通り**第二のふるさととして鯖江を愛し、ふるさと活動隊として大学内外で鯖江市の魅力を発信していく**決意を新たにしていました。

牧野市長はじめ鯖江市職員の皆様、寸暇を惜しんで親身に対応してくださった八田さん、澤村さん、乙坂さん、取材・体験等活動に快く応じてくださった皆様、温かい御支援と御協力、誠にありがとうございました!

